

バスターミナルにおける地場農産品の販売や簡易健康相談の提供等によるにぎわいの創出

「交通」×「農業」・「医療」（北海道帯広市）



事業実施主体

- 【共創プラットフォーム】十勝圏公共交通共創プラットフォーム
- 【運送事業主体】十勝バス（バス事業）
- 【共創パートナー】なまら十勝野（野菜卸業）
十勝ヘルスケアクリニック（医療）等

地域課題

- ・郊外団地の人口減少（1万人が半数以下）と高齢化の進展
- ・団地内の買い物・医療施設が少なく、自家用車がないと生活が成り立たない状況

実証事業の内容

- ・バス乗車を目的としない住民も含め**バスターミナルに賑わいを創出し、人流を生み出し、結節点としての機能を強化**するため、十勝バスが団地内で運営する店舗を活用し、バスターミナルとして整備・運営。
- ・「にぎわいターミナル」では、なまら十勝野が生産する**地場農産品の販売（十勝バスの車両に混載して輸送）**や、十勝ヘルスケアクリニックによる**簡易健康相談サービスの提供等**を行い、**人が集まる場**として賑わいを創出。

今後の展開

- ・令和6年度のにぎわいターミナルの本格実装に向けた新たな実証や、本格実装時の資金調達方法（クラウドファンディング等）の検討。

<事業実施区域>



出典：地理院地図（電子国土Web）

<事業スキーム>

ファースト・ラストワンマイルの移動を支える「葉の交通」（AIオンデマンド等）と効率よくたくさんの移動を支える「枝の交通」（路線バス等）の間に人流を生み出し、地域の課題を解決するために、結節点であるバス停の機能を再定義し再構築することが求められる。にぎわいターミナルの筐体は、設置場所や住民特性等の要件によりフルスペースからミニムスペースまで複数の仕様があるものとする。

にぎわいターミナルの機能・役割（定義・一部）		要件別 にぎわいターミナル筐体	
バスも停まれる 路線バスやAIオンデマンドバス以外にもシェアライドや自家用車が停まれるようにし、様々なファーストライトと路線バスを結節点にする。	バス利用者以外も使える バスに乗らない人にも開放し、路線バスを身近に感じてもらえように、買い物や飲食を楽しんでもらったり、思い立ってバスに乗ってもらうきっかけを作っていく。	フルスペース（設置スペースが効率的に利用できるエリアに設置） スポンサー名 コミュニティスペース、ショッピングや健康などの機能を実装	ミドルスペース（路線上かつコンビニエンスストアなど連携が見込める施設に設置） スポンサー名 24 HOURS
目的地が見つかる 利用者にとって有益な情報を提供することで、たとえ途中で下車してしまっても、ひと足伸ばしてみたり、移動のきっかけを創出する。	街の安心を作る AED、非常時浄水器や発電機、備蓄食料などの災害対策、犯罪抑止や通報機能などの安心設備を設置し、街に安全をもたらしていく。	ミニム（路線上かつ設置スペースに乏しい一方利用客が見込めるエリアに設置） スポンサー名	
待ち時間が楽しく快適 快適かつ安全に過ごせる建屋を構築し、コミュニティスペースやちょっとした本棚などを実装することで、バス停で待つことが楽しくなる。	新しい収益源 ミニマルシェやカフェなど、物販や飲食サービスの提供や、スポンサーモデルの採用により、コスト削減したバス停が路線バス事業者の新たな収益源となる。		